



福島県 事務研究会報

<http://f-jimuken.kir.jp/new/> (ホームページアドレス)

第 1 2 3 号

令和5年12月15日
福島県公立小中学校
事務研究会
発行人 尾又芳行
編集 情報委員会

- ◆ P 1 副会長あいさつ
- ◆ P 2~5 夏期研修会参加報告
- ◆ P 6 各専門委員会活動紹介

- ◆ P 7 全国公立小中学校事務研究大会参加報告
- ◆ P 8 支部活動紹介 (相馬・双葉・いわき)

「集い、つなぐを継続して」

福島県公立小中学校事務研究会 副会長 武藤 正顕



9月5日、ビッグパレットふくしまを会場に令和5年度県事務研夏期研修会が開催されました。平成30年度に行われた前回から5年ぶりの夏期研修会は、315名（午前290名、午後281名）の参加をいただきました。どちらかだけでも都合のつくところで研修に参加したいという会員の皆様の研修に対する意欲を感じることができ、今年の夏の暑さに負けないくらいの熱気あふれる研修会となりました。本研修会は、午前の部を領域別研修、午後の部をステップアップ講座と設定して、学校事務職員が積極的に自ら学ぶ機会とし、県事務研の目指す学校事務職員像「子どもの学びを支援する学校経営事務の実践」につなげるために、事務理論や備えなければならない実務を主体とした研修として企画しました。各分科会会場ではグループで協議するスタイルが多く見られ活発な意見交換が行われていました。

さて、令和5年7月5日付「第五次長期研修計画の期間延長及び次期研修計画に係る研究大会等のスケジュールについて」で会員の皆様にお知らせしたとおり、当初の計画から2年間延長し第六次長期研修計画の策定する期間を十分に確保することになりました。これに対応し、次期研修計画策定に関する立案と助言を目的として特別委員会を設置し活動しています。また、第六次長期研修計画の策定に当たっては、会員が共に考え、共に創り上げていきたいという考えから、「想いをかたちに」アンケートと題し、これからの県事務研の土台となる「基本理念」や「目指す姿」について皆様からご意見をいただいたところです。この延長された2年間で、令和9年度からの第六次長期研修計画につなぐことができるよう、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

夏期研修会参加報告

令和5年9月5日（火）ビッグパレットふくしまを会場として、5年ぶりとなる夏期研修会が開催されました。午前の部では、参加者が希望する研修へ出席する「自己選択型」の領域別研修、午後の部では、経験年数ごとに3つに分かれてステップアップ講座が行われました。

参加した会員からは、「勤務年数や世代、支部を超えて、現状分析や課題についての意見交換を活発にできた」「聞いて、考える研修ができた」「研修で得た知見や向上心を次へつなげていきたい」「グループ協議で共有したことを参考にして、自校の業務にも反映していきたい」など多くの声が寄せられ、有意義な研修会となりました。

領域別研修Ⅰ 学校マネジメントプランの設計 ～専門的知識を生かし、学校の教育力・組織力の向上に寄与するために～

令和3年度及び令和4年度の教職員等中央研修事務職員研修に参加した4名の方々から伝達講習があり、その後、グループに分かれて参加者の所属校の課題解決についての協議を行いました。様々な地区、経験年数の参加者でグループ構成されていたこともあり、いろいろな視点からの課題や現状を知ることができました。また、協議を通して、課題解決のためには、より学校事務職員の専門性やスキルを高める必要があると思いました。

今後、学校や私たち学校事務職員を取り巻く環境は変化していき、今まで以上に業務の専門的知識が求められます。学校事務職員の業務は多岐にわたるため、幅広い分野の知識を習得し、学校マネジメント機能を十分に発揮できるよう、今回の研修を通して学んだことを生かしていきたいです。また、主体的・積極的に学校改善や学校運営の支援、参画を進めていき、教職員や保護者から期待されている力を身につけ、より良い学校づくりに貢献できるような学校事務職員を目指していきます。

（鮫川村立鮫川中学校 小針 由惟）



これまでは目の前の仕事をこなすことで精一杯でしたが、採用3年目となり、学校のために自ら行動できるよう成長したいと思い、この研修を受講しました。

前半は、教職員等中央研修事務職員研修を受講された先輩学校事務職員による伝達講習を受けました。学校事務職員としての立場や、専門的な知識を生かした学校改善への取り組みなどを聞き、学校のためにできることが多くあることを知りました。

後半は、学校改善ワークシートの作成では、県や支部、学校ごとに抱える課題などについて、グループで意見交換をし、それらの解決方法について話し合いました。他支部の学校事務職員と協議する貴重な機会であり、有意義な研修の場となりました。

今回学んだことを生かして、学校事務職員としての仕事への関わり方や積極的な校務運営への参画などできることから進めていきたいと思えます。

（天栄村立広戸小学校 鈴木 弥門）

領域別研修Ⅱ 学校危機管理講座 ～安心安全な学校づくりのための防災講座～

学校危機管理について、3名の発表者から災害時の体験談や、学校事務の共同・連携実施を活用した災害対策、災害に関する研修報告について発表がありました。共通していたことは、災害に対する「事前準備」の重要性でした。学校の防災マニュアルの確認や非構造部材の点検、避難訓練の意識変化など、経験年数に関わらず、今から取り組むことのできる「事前準備」は豊富にあることを学びました。

新地町教育委員会教育総務課総務学校係指導主事の松本一宏様に、自然災害の基礎知識と災害への備えについて講義いただいた後、地域の防災拠点としての学校施設・学校事務職員の果たす役割について、グループでの演習を行いました。学校を避難所として利用した際に想定される地域住民からの要求への対応方法については、事例を交えながら考えました。災害時の保護者や関係機関との連絡調整、避難者の対応や避難所運営補助、教職員の諸手当やサービスに関する事務、学校施設設備・物品管理など、災害が起きた時にすべきことが多くあることに気づき、災害と学校事務職員の関わりは大きいと実感しました。

私は、東日本大震災を小学生の時に経験し、当時は守られる立場でしたが、今は守る立場として小学校に勤務しています。今回の研修で得た学びを生かして、学校事務職員の立場からできることを考え、行動できるよう努めたいです。

(いわき市立綴小学校 渡邊 陸斗)



領域別研修Ⅲ 対面コミュニケーション基礎講座 ～ラポール（信頼感）形成で組織パフォーマンスを上げる～



キャリアリバー代表の鈴木修子様より、話し手と受け手のそれぞれの経験や、思い描いているものが異なることで認識の相違が起こる「ミスコミュニケーション」についてご講義いただきました。このミスコミュニケーションが起これないようにするためには、コミュニケーションの土台として、相手の脳内マップを理解すること、相手の伝えたい内容の質感をどれだけ理解して受け取ることができるかが重要であることを教えていただきました。

また、信頼関係を築いていく方法や、相手にとって印象の良い話の聞き方、初対面の相手に親近感を感じる瞬間について、グループでの意見交換や実践を交えながら学びました。これまでの自分自身の話の聞き方や伝え方と比較して考え、改善すべき点に気づくことができました。

始めは会場全体に緊張感がありましたが、演習を重ねていくにつれて、どのグループも和やかな雰囲気になっていく様子が印象的でした。同時に、上手にコミュニケーションをとることの重要性を再確認しました。今後は、「伝えたから伝わった」ではなく、「どんな風に伝わったか」を意識することを大切にしていきたいです。

(二本松市立東和小学校 武藤 志歩)

ステップアップ講座Ⅰ 問題解決能力開発講座 ～子どもの学びを支援できる学校事務職員になるために～

同世代の学校事務職員が日々何を考えて業務に取り組んでいるのか、そして私たちが今後目指していくべき学校事務職員像について意見を交わしたいと思い、ステップアップ講座Ⅰに参加しました。

全体会では、取り組み事例を参考にしながら、「福島県公立小中学校学校事務職員の標準的職務（案）」の説明がありました。そのなかで、「自分の強みを生かした校務運営への参画」という言葉があり、自分の強みを見つけることも参画することへの第一歩になると感じました。次に、経験年数ごとのグループで協議が行われ、標準的職務表に当てはめながら、目指す学校事務職員像に近づくための手立てを講じました。法規などの知識を身につけることや広い視野を持つことなどの多くの手立てが出るなか、自分の時間も大切にするとといったワークライフバランスについても触れられたことが印象的でした。

最後に、福島県教育庁義務教育課ふくしま幼児教育研修センター主任指導主事の青田伸一様より、子どもの学びを支援するために学校事務職員が意識していくことについてご指導いただきました。そのなかで、「明日から何ができるかという意識を持つこと」という言葉が特に印象に残りました。私は、この講座の翌日、教職員の業務効率化を図るため、事務職員目線で職員室内の環境整備について提案しました。今後、自分の立ち位置からできることを考えながら、理想の学校事務職員に近づいていきたいと思います。

（いわき市立小玉小学校 黒瀧 結衣）



全体会では、「福島県公立小中学校学校事務職員の標準的職務（案）」が作成された経緯や概要、及び、校務運営への参画として「地域に開かれた学校づくり」に係る取り組み事例についてお話がありました。そのなかでも事務研の活動で得た知識や経験を、校務運営への参画に生かすことができた発表者の取り組み事例が特に印象的でした。

グループ協議では、採用7年目の学校事務職員がファシリテーターとして参加しました。協議を通して、経験年数の浅い学校事務職員がどんなことで悩んでいるのかを知り、その悩みや不安を少しでも解消するための気配りの仕方や言葉がけについて勉強することができました。また、採用年数の近い学校事務職員が仕事に真摯に向き合っている姿勢を感じることができ、励みにもなりました。今後の業務の中でも、経験年数の浅い学校事務職員をフォローしながら、自分自身のスキル向上にも努め、理想の学校事務職員像に向かって努めていきたいと思います。



最後に、福島県教育庁義務教育課ふくしま幼児教育研修センター主任指導主事の青田伸一様より、信頼関係の構築や学校事務の共同・連携実施の促進、学校経営への参画意識など、学校事務職員として大事にしてほしいことについてお話しをいただきました。また、子どもたちのお手本となるような立ち振る舞いを心掛けること、理想の学校事務職員像に近づくために何ができるかを考え、行動することの大切さについてもご指導いただきました。

（白河市立みさか小学校 大寺 美帆）

ステップアップ講座Ⅱ 学校事務標準の領域と機能の研究 ～キャリア形成に向けた研修体系整備と職務の再編・充実について考える～ 標準的職務の継続研究・2時間目『考える』

研究推進委員会より、学校事務職員の専門性の形成と複雑化・多様化した課題解決のために必要な「福島県公立小中学校学校事務職員の標準的職務(案)」についての説明がありました。また、後半に行われたグループワークでは、幅広い年代層の学校事務職員との意見交換により、標準的職務についての理解を深めることができました。

標準的職務(案)のなかには、これまで直接関わったことのない職務内容もあり、自分自身が学校経営に参画し、事務をつかさどることができるのか、不安な気持ちにもなりました。しかし、グループワークを通して、今まで関わったことのない職務に消極的にならず、専門的な知識を身につけることや校務分掌で組織としての役割を果たしていくことが、「つかさどる」ことへの一歩を踏み出すきっかけになることを知ることができました。

また、今講座を受講して、経験年数に応じて求められている職務についての理解を深めること、そして、学校の実態に合わせた課題解決への取り組みを積み重ねていくことの大切さを再確認することができました。



(いわき市立藤原小学校 齋藤 日瑠里)

ステップアップ講座Ⅲ 学校事務の共同・連携グループ長研修 ～学校の組織力向上を目指すため、 学校事務職員の資質・能力を高める研修のあり方を考える～



県内各地のグループ長とグループ実践内容における具体的な工夫や悩みなどについて情報交換をしました。そのなかで、自分と同じように、他地区のグループ長も実践内容について試行錯誤しているという話を聞くことができました。

福島県教育庁県中教育事務所管理主事の新田展弘様からは、学校事務の共同・連携実施の目的には「学校事務の効率化や教員の事務負担の軽減・組織力の向上」があり、その先に「学校経営に参画し、子どもたちのより良い教育を進める」という役割があること、そして、その役割を自覚することが大切だとお話しをいただきました。また、ファシリテーターからは、これからの人材を育てていくためには、若い学校事務職員が活躍できる場やミドルリーダーを育てる研修などを学校事務の共同・連携実施だけでなく、事務研と一緒にっていく必要があるとお話しがありました。

学校事務職員の役割を自覚するとともに、グループ員とも積極的にコミュニケーションをとること、そして、いまの教育に必要なことは何かを見つめ、課題を明らかにしたうえでグループ実践内容を考えていく必要があると感じました。今回の研修で得た気づきをもとに、グループ長とグループ員が共にスキルアップしていき、「児童・生徒、保護者、地域」に届く有意義な学校事務の共同・連携実施の実践を行うことができるよう、模索していきたいと思えます。

(郡山市立三和小学校 山本 静枝)

県事務研 各専門委員会活動紹介

【プランニング委員会】

次期研修計画である「第六次長期研修計画」の策定に向けて、日々検討を重ねています。策定にあたっては、特別委員会からの助言や第五次長期研修計画における成果や課題を踏まえながら進めています。また、会員の想いや願いを大切にしていきたいという考えから、特別委員会を通して全会員対象の「想いをかたちに」アンケートを実施しました。集計結果は詳細に分析し、会員それぞれの想いが少しでも多く反映できればと考えています。

なお、今年度7月にお知らせしたとおり、第五次長期研修計画期間が令和8年度まで延長となりました。引き続き、研修計画の活用を推進してきた中での成果と課題を踏まえながら各委員会と連携し、有意義な研修を提供できるよう進めてまいります。

【研修企画委員会】

5年ぶりに開催した夏期研修会では、実務を主体とした各講座やスキルアップを目指した研修を企画・運営し、会員の資質向上へとつながる実りある学びの機会とすることができました。今後は、参加者の皆様からいただいたアンケートを参考にし、次回研修テーマなどの検討を進めて参ります。

また、夏期研修会を通して事務局や他専門委員会との連携による横のつながりも深めることができました。現在、令和6年度の学校事務研修会及び研究大会に向けて検討を進めています。各委員会、さらには会員同士のつながりを意識しながら、夏期研修会で培った経験を運営計画作成に生かしていきたいと思っております。

【研究推進委員会】

今年度は、標準的職務(案)及び、育成指標(案)の作成、学校事務の共同・連携実施に関する研究に取り組んでいます。標準的職務(案)の作成では、5月の学校事務研修会全体研修で初めて会員に向けて提案し、参加者にアンケートを取りました。また、9月の夏期研修会では、5月に実施したアンケートの分析結果を報告し、世代ごとに求められる能力についてグループ協議を行いました。今後は、いただいた意見を踏まえ、標準的職務(案)及び育成指標(案)を完成させ、令和6年度の研究大会で発表できるよう進めていきます。

学校事務の共同・連携実施に関する研究では、各グループの成果や課題等の情報収集を行っています。学校事務の共同・連携グループの力になれるよう研究の方向性を検討し、引き続き研究に取り組めます。

【情報委員会】

会報の発行と「ガジなび」の更新作業を主にしています。会報の発行は年2回行っており、新しい情報を発信することや自ら取材することを意識し、情報提供の場となる会報作りのために企画を検討しています。

さらに今年度は、夏期研修会の講座運営に携わりました。その経験を今後の情報委員会の活動にも生かしていきたいと思っております。

また、「ガジなび」については、規則等の改正に迅速に対応し、充実した内容となるよう更新作業を行っています。お気づきの点がありましたら、「ガジなび」のメールフォームから、情報委員会へご意見をいただければ幸いです。

第55回全国公立小中学校事務研究大会（福井大会）

テーマ「地域とともにある学校をつくる

リーダーシップと組織開発」

ーみんながリーダー！ 子どもたちの「福」があふれる

新時代の組織づくりー

全国大会概要

8月3日から4日、福井県福井市にあるフェニックス・プラザを全体会場として、第55回全国公立小中学校事務研究大会（福井大会）が5年ぶりとなる現地参集、及びオンライン参加によるハイブリッド開催されました。

1日目は全体研究会Ⅰで本部研究提案があり、2日目の午前は本部研究分科会と東海プロジェクト、奈良支部、新潟支部、富山支部、石川支部、福井支部の各分科会が行われ、午後は全体研究会Ⅱとして分科会報告とシンポジウムが行われました。

本大会では、地域とともにある学校づくりにおいて必要なリーダーシップの在り方と、子どもの学びにかかわる一人一人の意識や行動を変革し協働体制を構築する事務職員・共同学校事務室の役割について追究しています。

参加者報告

福島県公立小中学校事務研究会副会長(全国・東北事務研担当) 久家 誠

全国公立小中学校事務研究大会福井大会が開催され、大変熱い2日間となりました。1日目の全体研究会Ⅰでは、「地域とともにある学校をつくるリーダーシップと組織開発」をテーマに本部研究から提案があり、2日目の分科会において、本部研究提案に基づいた事例発表やグループワークによる研究討議が行われました。

多様化・複雑化した社会を生き抜く子どもたちを育てるために、学校、家庭、地域が連携した学びの場が必要であり、その創生のための組織開発及びそれを推進するリーダーシップの在り方についての熱心な協議がなされました。様々な考え方や働き方の異なる人々同士がチームとして協創していくためには、より良い人間関係を維持しながらも目標達成に向けて仕事を推進するといった、リーダーシップを発揮する人材が必要となってきます。そこでこの人材の一角を担う者として、幅

広い人間関係をもつ私たち学校事務職員・共同学校事務室が求められていました。つまり私たちは、事務職としてのリーダーシップの発揮はもちろんのこと、総務・財務等に通じる専門職として、状況や場面に応じて環境や仕組みを整え、様々な経営資源を駆使しながら戦略的に子どもの学びにかかわる人々のリーダーシップを引き出すことができる立場にあるということです。そしてこの協働体制の構築こそが、地域と共にあるより良い学校づくりにつながっていくと考えられているのです。

自分にとって本大会の参加は、今までの職務・役割を見直し、学校運営への主体的な参画の在り方について改めて考えさせられた大変よい機会となりました。来年度の全国大会は本部主管となり埼玉県さいたま市で開催されますので、多くの方に参加していただき、全国の新たな風を感じていただけたら幸いです。



全体会場フェニックス・プラザ前にて



展示ブースおよび全事研コーナー

支部活動紹介

今年度の活動内容や支部の特色について、紹介いたします。

相馬支部 理事 村田 香里（南相馬市立原町第三中学校）

相馬地方小中学校事務研究協議会は、新地町・相馬市・南相馬市・飯舘村の4市町村に小学校24校、中学校11校、義務教育学校1校があり、会員37名で活動しています。

東日本大震災と原発事故という未曾有の困難は、私たちの職務にも大きな影響を及ぼしましたが、県内外の学校事務職員の仲間たちからたくさんの応援や励ましをいただき、その後の日々を一步ずつ前進してきました。「感謝」の言葉を胸に、令和8年度県事務研研究大会発表に向けて、『つなぐ』をキーワードとする研修・研究を推進しています。

個人や共同・連携実施、市町村研究会や相馬事務研としての実践・取り組み等を『つなぐ』ことでえてくる私たち相馬事務研の今の姿を令和8年度県事務研研究大会でご覧いただけたらと考えています。

双葉支部 理事 倉本 禎和（楡葉町立楡葉中学校）

双葉郡小中学校事務研究会は研修委員会と事務改善委員会の2つの委員会で研究・研修をしており、年に3回の研修会を行っています。

研修委員会は研修の企画運営や記録等を担当し、東日本大震災で大きな影響があった地域として「防災」を意識した研修を企画しており、地域の方々の震災・復興の講話や震災関連施設の見学を行いました。事務改善委員会はソフトや手引きの作成等を担当し、エクセルを利用した事務処理カレンダー、旅行命令書作成、転出職員送り状作成など、効率化・標準化につながるシステムを作成しました。

東日本大震災の影響がまだまだ残る地域で、会員の減少と偏った年齢構成（15名中12名が20代主事）など課題は多いですが、今後も引き続き研究・研修を進めていきます。

いわき支部 理事 鈴木 みのり（いわき市立平第三中学校）

いわき市公立学校教育事務研究協議会は、「学校力を高める学校事務を目指して～つなぎ合い・磨き合い・自分を生かす学校事務～」を研修テーマに掲げ活動しています。

いわき支部の特徴は、教育事務所と市教委が支部内にひとつであること、事務研と共同・連携グループの構成メンバーが同じということで、大変協働しやすい状況になっています。事務研では研究を担い、共同・連携グループでは研修を担うなど、すみ分けがうまくできています。昨年度の東北大会第3分科会発表では、各世代の意識改革につながり、これからの支部活動の発展が私自身もとても楽しみです。

今後も、事務研が様々な「つなぐ」場となり、全員が輝ける場となるよう研究活動を進めていきたいと考えています。

編集後記

有意義な夏期研修会だったという声をたくさんいただきました。久しぶりの同期や仲間との再会に顔をほころばせる会員の姿もありました。コロナ禍が明けた「新時代」とも表現される中で、私たちの研究活動も様々な「新様式」を取り入れながら推進されています。情報発信においても「新感覚」を取り入れた会報づくりに努めて参ります。
(情報委員会) [e-mail : joho@kir.jp](mailto:joho@kir.jp)

